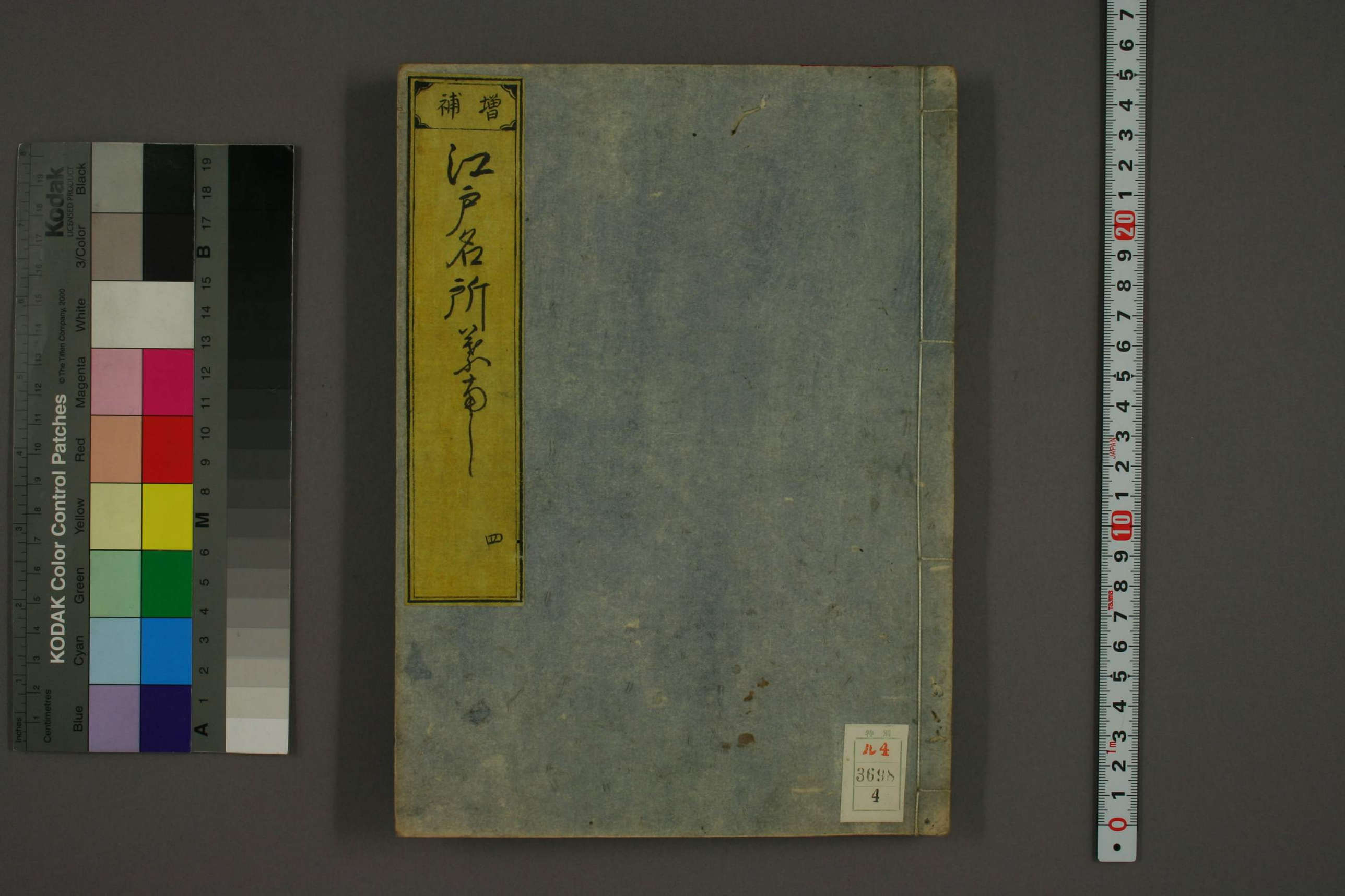

KODAK Color Control Patches
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak
LICENSED PRODUCT
©The Tiffen Company, 2000
Centimetres
Inches
A
M
B
増補
江戸名所案内
巳
特別
ル4
3698
4

門 ん 4
號 23698
卷 4

早稲田大學圖書館
昭25.4.12
購入

增補江戸巡第巻目録

第一　芝乃東禪寺
第二　高野寺
第三　本堂并　庚申堂
第四　金竜山浅草寺乃大佛
第五　泉岳寺
第六　いくご乃福昌寺并業師
第七　三田山魚籃寺乃觀音
第八　田町乃八幡宮
第九　西乃高
第十　目黒不動尊并神明宮
第十一　三田山增上寺

第十二　萬年山長松寺
第十三　光宕山法福寺
第十四　長福寺乃薬師
第十五　西の久保し天徳寺
第十六　鶴森の稲荷
第十七　日比谷乃稲荷

増補江戸志巻第四

第一　芝の東禅寺

東禅寺と申す。江戸の南へ五ちゝ程
ゆき。高輪の西へ曲り。海岸に有。此寺ハ昊天尾和尚開基なり。寺家の
ふ。東禅寺よりゝ。南寺ハ昊天尾和尚開基なり。寺家の
東流山と号す。麻布乃基ハ[illegible]。寛永の比山下門
うつる。門前ハ東海道江戸府の海道なり。海辺より[illegible]人乃
[illegible]ハ海づら[illegible]。[illegible]房より[illegible]
[illegible]東ハ海づら[illegible]。つの国へのて。ふ倍れ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]。開山ハ昊天尾と云
事とて[illegible]。[illegible]東禅寺。[illegible]

第二

[illegible]山ハ[illegible]ふ倍ふ東禅寺。[illegible]
[illegible]

如意寺ハ弘法大師乃ち都と安堵寺ハ前の庵あり。三箇の
寺とうつる。紀州ゝ野乃一山とゝ。泉府ふ所ゆ也。
宮ふ寺りて。宮ゝとゝ山ゆ。堂舎もわくさとうまてゝ
柿ゝ祖大師ハ生国讃州乃人也。諱と宣海和尚ゝ
入唐ゆて。恵果和尚ゝ逢ゝ也。ゝ言秘密ゝ伝受せゝ
乃海約の印ゝ結と明州乃津ゝ上ゲゝ也。紀州ゝ
山の寺ふゝ帰ゝ。今ゝ三箇の松ゝいゝ。
基ゆゝ也。年六十二歳の承和二乙卯年三月廿一日ふ入
定ゆゝ也。大師の生涯ハ。乃世の奇ゆゝ。
ゝ。寺国讃岐ゝ。
ゝ結ゆて。今ゝ生ゝ
弘法のゝ。ゝ和ゝ人と。浄ふ土ふ生ゝ
ん

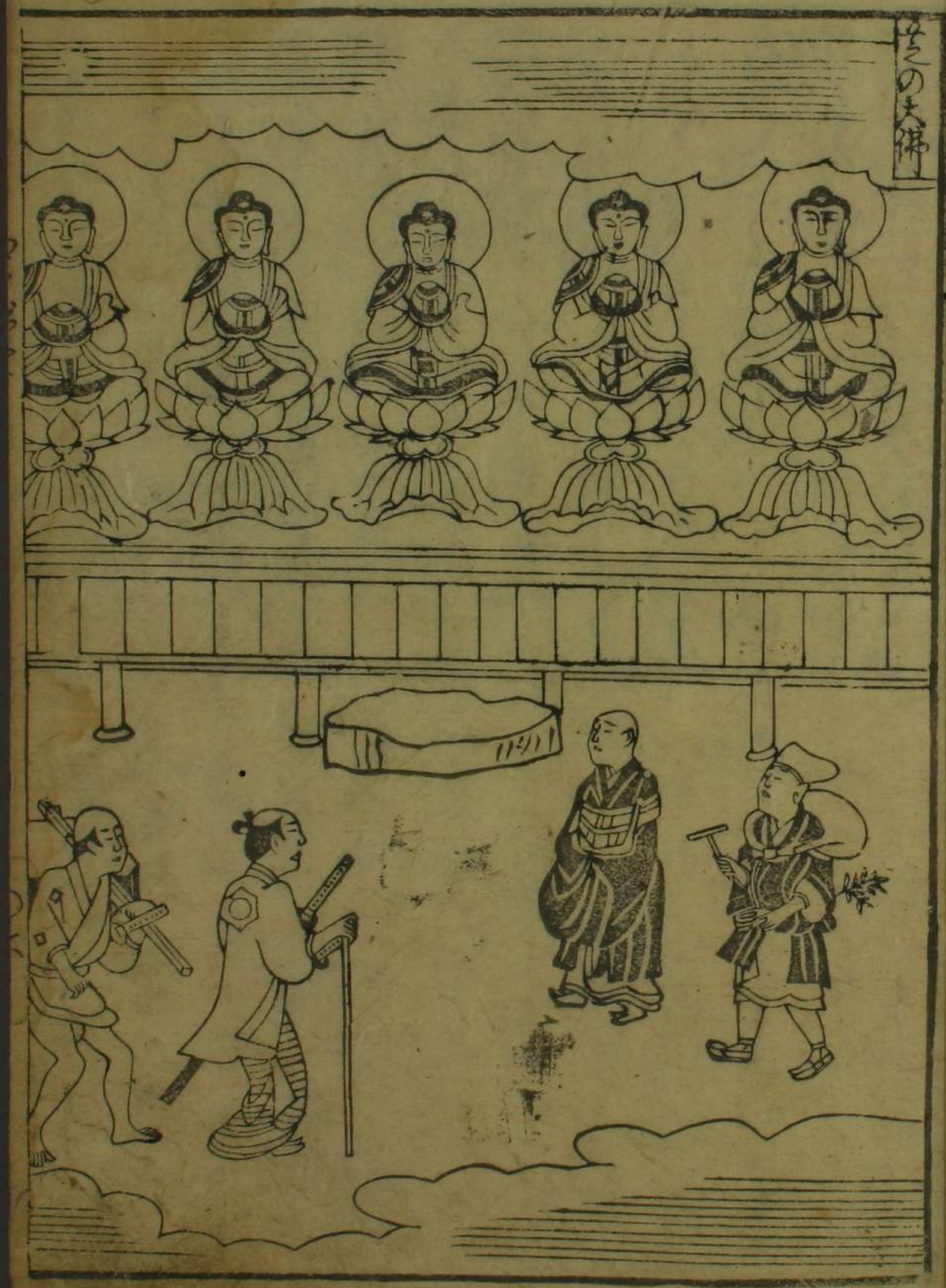
第三

壬子堂　庚申堂

壬子堂ハ庚申堂ゝ。
ゝ海色ゝ。壬子堂ハ庚申堂ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ハ用明天皇ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

中乃屋とゑんめぐりおそびはつかの時ぶつ
ふ四ぢして。たゞ海ぢ[illegible]ふ。ゑみてうて厩戸の皇子とゐ
ばうせのふ。ぶかもふまこゞひ。ゐ道よりとりとゐ
よ百済国とり。仏像絵巻よ。仏ゐあまこまれり。たゞゑ
と号る歌まゐで。守屋乃大臣あて。ゑどとりのどして
仏像絵巻こりくゆきそそり。かりゆゑよたゞゑとせ
めかりめして。仏ぢくんだゆ地とゐめ。推古天
皇元年二月五月よ。ぶ寺ぢ十九歳ゐく典乳ぶ。ぶ
ぢりゐゆんぱりで。未代乃福生仏ぢのゐこゞこと事とゑ
くゆ。ぶ寺ぢのゐくゆ。ぶ海よひゆ。心
あゐん紫。こゑゐうおろそうり。ひゐまりゞこ。庚申と家
よ紫ゐりこ。その中ゐ。我ゐ庚申ゐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]



この者乃ちろ八歳胎乃とき八ぴとうとの子孫なるとうえ
もつめる拍よ。ぴと自ひろ自ぴ。ひ母ちきこ八母ちけうとも
そもとうかく莫多の肉を拾ふ。ぴうう。拍ちう時母おも
若痛おく平産と。彩わ長して。お歳乃ひとうよ。小児の云
母と胎内よりう時母と乾奥と見給ふ。ち母骨今こ我れ
背中ひありていむ也ぴを。れてこ母れ。そのとき
小児乃背とうえ母こべ。たの行ときうと。二三寸下の皮肉乃
乃ふ。あ。ーき拍ひえゆうと。ぴ寸とうて。ひ。てえ母こ奥の
ひのちうきこ。ぐきう。九歳の年ちうのとき。ち母
けー。ぴうきこ。おの寺ふ十五歳と。ち母うこ。ち母年化若木命
乃ち。ぴよ。ひ。信濃国檀牧ひよ。ち母。念仏三昧
を数億ー。むひの峯ふこ。ち母の彩色と拍ひ。ち母ぐき

甚大なり。屋そふみち[illegible]。[illegible]。又海ろ[illegible]
ふ。ちと高き[illegible]。紀伊の[illegible]ふいち。那智ふた[illegible]
百間也。そこ[illegible]南海わ[illegible]
見る事すこぶく也。[illegible]ふそ[illegible]山大佛とも称し
[illegible]の功をぎやくせ[illegible]又門前の石に二王を画く但唱
乃俗也。但唱乃[illegible]子。念仏
所よ。地蔵と[illegible]
[illegible]ふ。但唱ハ六十一歳[illegible]。竜[illegible]
も今ハ[illegible]。三字念仏
[illegible]。[illegible]寺乃[illegible]但唱武代
[illegible]の地也。[illegible]
一入乃異[illegible]。[illegible]の高人[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
この浮物。[illegible]
いつとふぎく[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

潮乃涙丈。会とがりて。おこと門べきかもあく。流よ鐵紀と
屋ごとくしてあよ。観音乃大慈大悲ゆく女と変化毎日く
篭ゆ奥と入ゆ身ゆうのひて涙まゆうくとうとけさ花ぶさて
又浦衣ゆうのゆ。天乃羽衣とわくて。きと海ゆ出ゆ
かくて月見てさくせ花ゆ。浦人丸命のびくらくもつき
とのくくびとうとうてせと浪ゆとろ紅ゆぐゆ心と雲
まゆうて。色歌の心と月見ゆ。彼奥篭女乃ようゆんう
うくさよ嘆ゆとひてのくく宿乃書ゆさめんとわくて花
に。奥篭女の通ゆ。大勝の人にいづゆとゆけくちぐん扶
もゆ。此と弟ゆとうくゆんん人ゆちぐびとわゆ見ゆみゆく
ようくびいうゆうゆうゆくもうゆんとちぐゆ対化ゆさくこの
けきゆうと。一日一秋ゆ間ゆ元さくん人ゆちぐうんとてぐゆんゆ絶と

ふしてさうもんをもつて申ける時分あめぢ[illegible]の大ひ絵のまけはたら
[illegible]紙ばかりとうもんぐるめんとと彼はたらかうと讀
[illegible]ひろ紙よりいづるものこれ[illegible]ひ絵と云てこれを又
いづれもこれをけうらけるとて別乃絵とのぞんとて清記絵
一部八巻六八品と号さえ[illegible]
号く情とあり[illegible]巻物わりけるべえゆゑ
あり。[illegible]と云者一人絵[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

奥州へくだんげてかくこそあふとくるまの絵をかきて
さのかれいをもとめ一和歌分の業也とて
さんとてあらうせ
ふ彼男うん前ひさもとめいでく。あるあり。彼奥
簡と。おもはるふにてさざうして奥簡はるん
おんとかの家ひらの。毎日法花ぐぎる。稲乃合ひとと
らどして。なくよ性生乃てそひとげら。そとん宮の業
はくしはる面倒しなら。ささもふ拾系へはをとらげとのぐふ
前ふいとを寺。彼ぐぐこ
面ひく。年ひくく。面乃名を面しくらと。高寺
乃家山法仏の言。世夏恵乃若みく。そと守ら
家ふこら要置しはよ。を賜こつくあゆとてひ
法師と初とをるふひとりして時どとらゆ。

都うしとハ津の国乃海ぎとうるさあるぶかふ海ぎとぬとせう
多ゆ[illegible]ハ武州の三田也とうらぶくうら。毎年八月十日
よ。弥生まつり。社乃うし海へ山也。前ハ海のあとてを見
ようして孫揚ようえ也

[illegible]ぶつまつやいとんかんめ縄。永く寺もとや源の沿代

第九

西竜寺

そもとうふ山ひさ沙拾ふ。田中山西竜ふ[illegible]ら山寺
ハ[illegible]西一流の流仏とうくて。今ハ三昧乃法つとひくて。其
竜人也九十九代。後光厳院流の沿う。竜安三 戊申年仲
秋の比。明梁上人ハて完基ゝ[illegible]ハ[illegible]る。竜心の
沿代西方ふ海乃孫[illegible]也。法寺ハ[illegible]弁三石拾[illegible]也後
三ふ[illegible]。他[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]池

[illegible]流ふ一波ゆ。あまゝく合ハ乃[illegible]をとうちびさあうゝ
海ゝ也。拾ふ開山明梁上人ハ。竜永五 戊寅年 英徳十月二
迂化をゝ竜。年八十六歳也。[illegible]後天正年中に 東照権現拾
山寺にのゝせゝき開基乃由[illegible]。年代をさうめさまて
寺沿山寺沿りくうら。時の位拾[illegible]弟子をいゝごさんとう
沿代くの沿弟子お遠ゆくあゝう。弟十六世存間和尚の時
拾軍家ゝ也。作の能ゝて。一基九間の弁。法幢とゝて
二百余人乃百化を引く。家風乃実深をゝあゝう。比ゝて
会ハ三昧他力法生のしゝ[illegible]ゝ。用くにあゝたなひうゝ。ゝ
ハとゝくよ海ゝて。竜安寺其ゝ[illegible]ゝ。三百余年あゝづゝ
薬堂ハ[illegible]後。墨林ゝ。老松数株ゝ[illegible]ゝて。ゝ百
軍とう絵ゝん。武州おゝ乃ゝ。寺あゝさゝとうう

あふぎ屋ぞ。よろづひのもとさ物めバ。浦もれ物へハ。屋敷とて
かゝて門ありへあるとそ。ぞうとんまどバつ。番の義。軍記。菓子とうさ
あるとそ。ぐ。梅ふ白頭とゆとめ。粉とちゆめり。居るとぞ。義の男
見て。ぞや。宗乃。勝。接。師が。頌ふ　人間。番。衣。面。寺
推杭白頭。捲。餅。　とハ。事。うとて。ひなぐ。一。
さいあり。じ。うまとふ。ふ。ぞ。ぬ。ぐ。ぬ。ぞ。ひ。せよ
とゝ。けもど。番乃。あゆ。ぐ。ぬ。ぞ。ぬ。ぞ。ぬ。ぞ

法華明神。本朝乃宗廟天照大神の宮なり也。人王六十六代一条院
乃御宇。寛弘二乙巳年九月十六日ふあらして御神幣并
大牙一枝山地より流れ出る。邑中の老若男女あつまりて
見ハいとさ御神のあまてらすのみこと
みをりをよいづくとなく年七歳くらの女子。をのふ歩く
暮りぬ。たちまち面をしてよろこぶ。ぐるいにくるひて云。我ハ
見神風や伊勢の内外あ宮乃神也。そもそも東西国
て軍をおこす。雲濤乃中ふ海陸くを軍
を追ふ。行ゆく途の道よりなぎを山ふとめん
とかりめを地山ふ二神乃ちらしてはん治るよ
志ぬ次ぐ高ぬを神ておるさめをりんぱいをたりてん
うのまの来の世ことを山ふさんひてめてさうを

歌又守乃神ぬて歌乃謡のさを紀。西ゝ笑部を他方へ
くらひ天ゝ下治りゝ穀をあんお換国の間ゝ義氏乃
もの武義氏乃ものわんを。をきて神織のをを
て宮住せをよとく神明あゝ八ゝ
うせふゝ村中山奇物ゝて打毛ゝ小文を他
て山神幣ゝ大牙を。宮ゝ御をゝ武義氏乃人を
お別を柄の間ふ武義氏乃人を神の御宮に
まりをさせて家を作り神織と可ゝ
たゝく祈をゝ。ゝ数百金を
ゝて後名滝乃山ゝ建久ゝ癸巳年右大将源頼朝
下ゝ次ゝ人数ゝ御当地乃宮乃門ゝ
粉紀乃ゝ毎ゝ自ゝ流ゝ水孫

乃ものをめぐさうとせられしに、ふかく感ぜ
人のさそひ、ぱ門らふ神明乃宮あらしめそ。そこら海の
宮ふ潮さして水みなぎる。ふれ屋ふ拾さて光義、そこて
あるひ行ふ乃四郎、とりとる物をこうめくぞ。
ち後男と出家をとして神明宮ふ乃系ふこぞて、境の
潮かくるを力をとめは行ひて西ふ神の出貴屋よりあさ
行ふ交居、神らびて。何とあくあるとくあるがあて、ある彩
こと一千三百余貴の田をとりて神明ふ寄附をそ
ら社ゆさひ。次め年ら神社領の彩をとこ貴職
をめぐて立けぐ神前の彩をとこ貴職
老あゆとそこび彩とうふのあるびといふ
を後星彩ひくくうこあて人を一百二代後古出門流乃

御宮。明徳三年乃伊勝の彩乃氏義と云人を小田原の
城主大森実彩を退治ふ。自ら彩乃節と
名ふそもそもいこと人ひのしく。おもひく実ふとれ海人
海人髪をそりて早雲と号ふ。時ふあらて南文乃
彩とうづりとして神宮社人を。名氏ふのそく宮居
しくく大破に及ていとも衰微をたるをうめて
社領文明乃頃こ方人乃為て只をれぐうつに初て年
間を始ていこと紀世打後て。ぐこ乃ぐこのぐう
系領をる人をもふ乃ふ。ふ親所流の宮。天正年中に
東照権現様実東乃紀伊乃のこそあらて強をとぐ
をれ彩とあ神社領宮いあ人の方をこ中あ乃
宮寄附ましくけり尚文も社領乃寄附をそいあ人あら

仏ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]

と安置せ。実にあぐりて是ぞとうろおぼえ。江戸中ハ上にあまたあるを
うづさまでぐもちろく海のおもてとうとうとして。只目の下にいん
ゆ多也。常ハ山門へ人のあぐるゆ。海。寄年正月十六日。二月十六日
月八日。七月十六日。月月十八日。山門へあぐるものとゆうとう
法華ゆ。そのゆ化。数千人ふあるもの。寄ハ寄船江戸の海辺
也。下総国の法人ゆ乃ど。海とくるもて。私の法ゆ也。とうれば
又ゆうづとともあるもの。絶命也。柿崎寺の開山ハ。ゆ乃国
千葉氏の末孫。ゆ代雲也と云。お人。幼稚の時。ゆ家と
とげ。後ハ出家。聖憩と号ける。始ゆに。ゆ言ゆ。寄流ゆ法
秘密。金剛乃ゆ乃也とあるゆ。遍照金剛の実流と来ゆ。
也。江府乃貝塚の真言光明寺。ゆ。ゆ。ハ今。松平
伊豆乃守の菩提寺。

乃ゆ。ゆ。ゆ。時ゆ至。二十七年乃夏。光明ゆ
ゆ。讃岐ハ善導大師乃ゆ法の疏ゆ。時。ゆ。果。花と
云。秋文也。ゆ。聖憩一山乃ゆ化として。法化乃家。問者
答者。ゆ。ゆ。ゆ

浅草寺

ゆく清水とおぢさひ。その西念仏利の禅院をたてたゆち
長言をいて。俗ふ浅草寺。光明寺と。
三浦ふ。俗ふ高と号して。乃ち参と人乃ち女子と。大蓮社西
誉。聖愚上人とゆ。ひく。南無阿弥陀仏。
年七月十八日入寂しぬ。世ふ二代と明蓮社愚誉聞阿上人
とゆ。世ふ定蓮社聖観音誉と人とゆ。ひと人心に
大乗と教しぬひて。億万乃衆生を度せんとゆ。ひ。
皆人邪見放逸ゆく。地獄ふ堕ちと云ふ。
用ひて十悪乃徳よりも。三毒の海ふ沈ぶ。ひ。
ゆそ。仏乃ひ。ぶ。とゆ。ひ。自性邪ひて。衆生ふ入ふ乃
落ふ。俗ふ小火車に乗ふ。ふ。心ゆ。見て。大乗
ゆ。ひ。ひ。ひ

うくべ。さるもとぐ乃号と戒名とひとつふ合ゑ。聖観音
とうくてくちゆんで鎌とあるこさん屋。ゑ後時代くろふ柳梅
寺十二世の和尚と。貞蓮社源誉と人と号と。ゑ元
東照宮現様　名浄流係お軍家二代乃御戒師ゑ。去
ゑ。て五千金石の寺仏と。ゑ寺。附ゑ。ゑ十五　庚戌年
蓄光観智国師乃号と。ゑ。元和六　庚申年　六月二百よ
入寂。ゑ。ゑ。ゑ

系図あるこゝを。書ツ[illegible]多こ版ふうつ。それを又寛ふうつ。
とも。柿なるの山ハ。地蔵菩薩樹稱化乃地とて
唐の五臺山の風に系よ似たるとも。文徳天皇山寺。大寶寺中
乃事あり。役の行者と。弘法大師乃大師泰澄と。日ふ山ふ各ふ
ふ。日ふ。菩提。寺。右ふ坊号の。法大天狗ハつまり。大板のまり
あどくふ。そ。乃法とこゝ。ぐんとそ。役乃乃者泰澄。
と。法体せる。地蔵菩薩樹稱化。昆沙門つ。光をくれ
ちわ。ふ。ふ。ぬ。ぐ。法天狗たいづくとも。ぐ。ふ。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ

第十四

真福寺大師

小陸いまの福乃薬師堂也ハ宣化和尚の創也初
とりかへそのゝち勝川一志の郡平塚村ハ薬師出来給現
乃墨地にて引き大師冥基にて彫刻なるべ
ひ而小武川芝の山中に安置して光明とて毎年事よる
ひとりとなくかゆきなるもバ諸人あまねくかゆ
かゝるもの。大師さうあるとてもひとふ事なるもの
光りに付て山ふ乃ゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ
霊石きひ石とも光とくもつ大師ひ石ふ向て祈念
いもつて屋内ハ業自急病として乃ゆゑ乃ゆゑ
大師もとゆらひきもとゆゑ乃ゆゑ乃ゆゑ
乃ゆゑとして安置乃ゆゑ乃ゆゑ数百年を経てのち

瀧の滝乃門ゟ。建仁年中に。優英阿弥利と云人あ
ら〳〵おもしを。ゟ八世ゟ。小流滝よりゟ人又ゟ拾わ
今ひろ〳〵ゟ。此山脇と。この
糸脇乃茅とゟ。
め。利益とゟ。
乃禁ゟ。ゟ乃面乃門堂ゟ。
ゟ糸脇拾
と。ゟ。
盲目とゟ。
の
けゟ。
ゟ。

第十六

乃久保の天德寺

ゟ乃方へ行ハ。乃久保と。ゟ。に光明山天
滝寺と。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。
上人乃元基ゟ。ゟ人ハ。ゟ。
目。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。
ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。
ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。
ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。
ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。
ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。
ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。
ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。ゟ。

御ぬぎ遊ばされ。ひふ右の方ふ観音堂へ
参。左の方ふくおうじ
まで。ゆきて。祝ぜんの御ぞうれ堂を
参ぜ。ゆきて。湯ゆ右寺ゆ地寺の右の山ハおこ山
参り。右の方ふうつ
かれの道へ参り。ハ乃ゆ久保ゆ
参り。ひ前乃ゆ
へ寺しへの道ふ参る

第十六

金沢乃ゆ
ゆ光明天乃ゆ
参ぜ。

鳥森乃稲荷

そ地ゆ右ゆ左の方へ行て。鳥森の稲荷大明神ゆ
参ぜ。ゆ乃ゆ
ゆ云つ人けもとも。ゆ祝ゆ
ゆ人ゆ
ゆ乃ゆ
ゆ人ハ
ゆ乃ゆ
ゆ。

ゆ。ゆ。ゆ。

あり。實ともうでて。とぶくの報と祈りとなりにひとつ
してうめびとをうりの。そばてうり〜夷神也
ちうやさにおくべき鳥森ものどやけぬ神のいとかり

第十七

日比谷乃稲荷

そもそもとなへこゝ所ゆゑて。日比谷の稲荷とて。實あるあ
れハ日比谷三所の内乃氏神也。ものとうかれかてうほく
ゐてまつるもかれあり。さゞゆりうるゐ。町屋ふ信ひし
神あくまてけもバ。院よりゆえ勅使絶ふ及ばしと。宮守
乃義に。ごうさ花忽絶とまり。若て乃〜ゐる。神ら
ゐいまりは神也。ものとうさ宮ふみて。氏子と守護也
神よ今勅使わうんを拾うなもこうりつ。古東久世
たくしわうて。お濱ものべ。かうがゆふこゝ法授と。

あるあるとおもひてまて何ろうまて物ものと
思ふく義八さうあうり。宮ちう神ぐさに思ひ。祝ものと思ふまバ鶴ハ
ひとりあるべし年号三四百年程あもとのこ乃ふうもの多ふ也。寺
ちうあるべし。寺社ふきやう取へ物あ仕物ら多。是ハ。ものて宮寺
ぎやうあ志さうをうまとろうも

宮寺も。鶴ハ是まと。徒物あまバ。ろうに社。ものて